

ハチクサン[®]FLとアジェンダ[®]SC 接触時の作用の違いとドミノ効果について

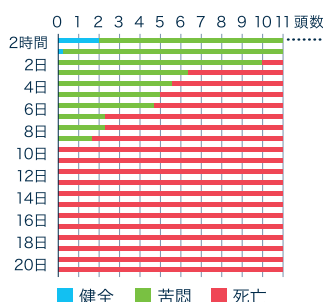
1 試験方法

- ① 供試薬剤：ハチクサンFL、アジェンダSC
- ② 希釈倍率：ハチクサンFL：200倍、アジェンダSC：300倍
- ③ 試験方法：直径9cmのシャーレにろ紙を置き、各薬剤の希釈液で処理。ろ紙への希釈液滴下量は2mLとし、1日放置後に試験に供した。各シャーレにイエシロアリ職蟻10頭、兵蟻1頭を放虫し観察
- ④ 繰り返し数：3回
- ⑤ 対照：水
- ⑥ 観察：20日までの観察（健全、苦悶、死亡）2時間後のシャーレ内の様子をビデオ撮影

// ハチクサンFL 200倍 (イミダクロプリド 0.1%)

2時間後に既に多くの個体が苦悶しているのが観察された。10日後に全ての個体が死亡した。

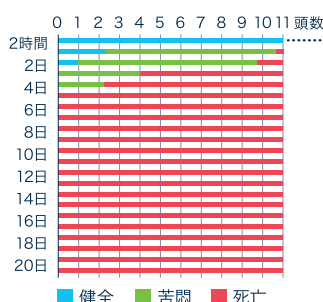
ビデオ撮影の様子はこちら



// アジェンダSC 300倍 (フィプロニル 0.03%)

2時間以内では、供試個体は健全に行動していた。イミダクロプリド（全頭死亡10日後）より早く、5日後に全ての個体が死亡した。

ビデオ撮影の様子はこちら



2 試験結果

ハチクサンFL：処理後2時間の段階で行動抑制が起きた。全頭死亡は10日後
アジェンダSC：処理後2時間の段階で行動抑制は起こらないが全頭死亡は早かった（5日後）

3 考察

ハチクサンFL：接触個体に早めの行動抑制が起こる。

その後、他の健全個体による様々な行動パターンに伴い、徐々に薬剤が伝播していく

アジェンダSC：薬剤接触後も一定の行動が継続し、イミダクロプリドと同様の伝播メカニズムに加えて、初期の段階での1次接触個体自身の活発な行動によっても、徐々に薬剤が伝播していく